

# 衛生管理（公衆衛生・環境衛生）まとめ 通信2024

## 【世界保健機関 WHO】国際連合の専門機関（日本も加入している）

WHOの憲章に書かれた健康の定義	『健康とは、完全な肉体的、精神的および社会的福祉の状態であり、単に疾病または病弱の存在しない状態ではない』
------------------	---

## 【公衆衛生の定義】

公衆衛生学者 ウインスロー	『公衆衛生とは、地域社会の努力によって、病気を予防し、寿命を延長するとともに、肉体的、精神的な健康と日常生活の能率を増進させることを目的とした科学であり、技術である』
------------------	---

## 【公衆衛生の歴史上の人物とその業績】

ヒポクラテス	・偉大な医聖	リスター	・薬品を用いる化学的消毒法
ジェンナー	・種痘法の開発	ラバック	・化膿した傷を洗うのに次亜塩素酸塩を使用
ナイチンゲール	・世界初の看護師養成校の設立	アルコック	・飲料水消毒に次亜塩素酸塩を使用
パスツール	・微生物の研究 ・低温殺菌法（パスツリゼーション）	ゼンメルワイス	・産褥熱（さんじょくねつ）予防法として、手指を塩素水で洗った
コッホ	・結核菌や多数の病原微生物を発見 ・細菌を純培養し、分離する研究方法を確立	シンメルブッシュ	・外科用材料の蒸気消毒
		アンダーウッド	・高圧蒸気滅菌器をつくった

## 【保健所】地域の保健衛生行政における中核的存在

- ・所長（医師）、技術職員（薬剤師、獣医師、保健師、臨床検査技師、診療放射線技師）、事務職員を配置している
- ・保健所の業務（14項目）・・・健康保険は属さない（教科書P18表1-3必見）

保健所が行う事業のうち、美容に直接関係するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容所の開設の際の施設の検査確認</li> <li>・保健所の環境衛生監視員による美容所の立入検査</li> </ul>
-------------------------	--

## 【出生率の低下】日本の高齢化は過去に例のないスピードで進行 → 平均寿命の伸び、死亡率の低下、出生率の低下が原因

出生数	・1年間に生まれる子供の数（2015年（平成27年）わが国の出生数は、約100万6千人）
出生率	・人口1000人に対する出生数の割合（2015年では、8.0）
合計特殊出生率	・一人の女性が一生の間に産む子供の数（2015年では、1.46人）

## 【母子保健】わが国の母子保健の水準は概して高い（概して → 大体に、一般に）

### ◎ 母子保健法・・・母と子の健康に対処する

- ・妊娠したときは、速やかに市町村に届け出ることが母子保健法に定められている
- ・市町村から届け出をした者に母子健康手帳が交付される
- ・妊産婦は、妊娠や出産に関して必要な保健指導を受けることができる

※医療機関などでの妊産婦や乳幼児への健康診査や家庭訪問による保健指導

乳児死亡率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児についての死亡率（出生1000人に対して生後1年未満で何人が死亡したかを示す値）</li> <li>・我が国の乳児死亡率は、2015（平成27）年には1.9（世界でもトップクラスの水準）</li> </ul>
妊産婦死亡率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠や出産に関係する疾病や異常による妊産婦の死亡率（出生1万人または10万人に対する比率で表す）</li> <li>・我が国の出産10万あたりの妊産婦死亡率は、2015（平成27）年には3.8</li> </ul>

## 【我が国における死亡率の低下】

死亡率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その地域の人口に対する死亡数の割合</li> <li>・人口1000人に対して1年間に何人死亡したかを表す値（粗死亡率）で表される</li> </ul>
年齢別死亡率	・思春期のころ最も低くなり、その後は年齢とともに上昇する
年齢調整死亡率	・年齢構成の異なる集団間で死亡率を比較すると、高齢者の多い集団ほどみかけの死亡率が高くなる。この影響を調整するため工夫された指標

※日本の粗死亡率は、高齢化のため、上昇傾向にあるが、年齢調整死亡率で見ると順調に低下してきている

【平均寿命】日本は、世界有数の長寿国である。女性の平均寿命は世界一

・2015年（平成27年）には、男性80.79歳、女性87.05歳となっている（男女の平均寿命の差は約6年）

【公衆衛生水準を表す指標】乳児死亡率・死亡率・平均寿命

【生活習慣病】がん、心臓病、脳卒中など → 食習慣・運動習慣・休養・喫煙・飲酒など（生活習慣）が原因

・40歳前後から死亡率が高い

予防・・・食習慣・運動習慣・休養・喫煙・飲酒などに気をつけ、正しい生活習慣を実践することが重要

対策・・・早期発見・早期治療・生活習慣の改善が大切

◎ メタボリック症候群・・・肥満、高脂血症、高血圧、高血糖などの状態

【主要死因別死亡率（人口10万対）】（教科書P28図1-8 主要死因別にみた死亡率必見）

1位・がん（悪性新生物）↑ 2位・心臓病（心疾患）↑ 3位・肺炎↑ 4位・脳卒中（脳血管疾患）↓

【健康増進対策】

◎ 健康日本21・・・第1次予防に重点をおいた、21世紀における国民健康づくり運動

・壮年期死亡の減少、健康寿命（認知症や寝たきりにならないで生活できる期間）の延伸などを目的としている

・生活習慣の改善や、生活習慣病予防について目標を設定している

◎ 健康増進法・・・栄養改善、生活習慣の改善を含めた国民の健康増進を図り、国民保健の向上が目的

【がん】男性は、肺がんの死亡率がトップ。女性は、大腸がん、肺がん、胃がんが上位

・近年減少傾向だが、欧米諸国と比べて胃がんが多い。また、肺がん、大腸がん、乳がんの死亡数の増加傾向が続いている

【心臓病】特に生活習慣病として重要なのは虚血性心疾患（狭心症と、心筋梗塞がある）

◎ 虚血性心疾患の患者や死亡数は、年々増加傾向にあり、40代を過ぎると男女とも急速にふえる

・虚血性心疾患の増加原因 → 高齢化や、動物性脂肪、糖質の過剰摂取で動脈硬化の患者が増加したため

・危険因子・・・運動不足、ストレス、喫煙、高血圧、肥満、糖尿病

狭心症	・心臓に栄養を補給する冠状動脈の硬化や異常収縮などにより血液の流れが悪くなって起こる
心筋梗塞	・冠状動脈に血の塊りなどがつまり、心筋への栄養が妨げられて起こる（狭心症より重症）

【脳卒中】脳の栄養をつかさどる血管の障害により、意識がおかされたり、運動・知覚の麻痺が起こる病気の総称

・脳卒中は、高血圧や動脈硬化が発病の主な基礎 → 予防は、高血圧や動脈硬化にならないようにすること

脳出血	・脳の血管が破れ出血する
くも膜下出血	・脳の表面のくも膜の動脈が破れて出血する急性のもの
脳梗塞	・脳の血管の血流が悪くなるか、完全に詰まって起こる。主に高齢化が原因（脳塞栓と脳血栓がある）
一過性脳虚血発作	・一時的に脳の血流が悪くなって起こる発作

【糖尿病】血液中のブドウ糖の濃度が上昇する病気

・生活習慣とは無関係な1型糖尿病と、2型糖尿病がある

※ 2型糖尿病は、運動、肥満、食事などの生活習慣が大きく関連しており生活習慣の改善で発病を予防できる

・わが国の糖尿病の患者数は約740万人で、国民病の1つ

・糖尿病は、血管の老化を促進し、脳卒中や虚血性心疾患などの要因となる

・糖尿病の合併症（腎機能障害、失明など）が重大な問題（教科書P32図1-13糖尿病の合併症必見）